

編集後記：街の何気ない景色の成り立ちを解説することで人気のテレビ番組「ブラタモリ」がついにつくば市にやって来ました。一般には知られることの少ない、地図作成や地質調査関係の地道な業務が紹介されていました。コロナウイルスの影響からか普段のような街中の撮影はあまりありませんでしたが、つくば市内には筑波山を始め、万博の遺構や新交通システムの未成線といった番組の題材になりそうな対象がいろいろありますので、次回（がありましたら）は野外での散策、そして気象関係の施設への探訪にも期待したいところです。

タモリさんの別の番組では、大手町の旧気象庁内で撮影されたこともありました。こういった一般の方があまり立ち入らない、特に旧庁舎のように無くなってしまった場所の映像は将来貴重な記録になるのではと思います。「天気」の1964年11巻4号では旧庁舎新築直後の写真を特集しており、昭和の東京風景を含む庁舎外観や庁内の新鋭設備を垣間見ることができます。なお、その前号の記事によると旧庁舎は3月12日が落成

式、総工費は19億円あまりとのことでした。このようにちょっとした情報も記録されているところが「天気」の良いところだと思います。個人的な旧庁舎の記憶を記させていただきますと、初めて立ち入ったのは大学院生時代に気象学会が庁舎内を大会会場にしていたときでもう前世紀のこと、それでも既に築30年以上経ったところで古めかしさを感じたことを覚えています。確か当時は今のように厳しい入退場チェックは無く、非職員でも気軽に庁内の発表会場を回っていたように思います。

さて、既に新庁舎移転から1年近くになりますが、折しも従来は庁舎内の学会事務室で開催されていた「天気」編集委員会を含め多くの会議がオンラインとなり、私としてはまだ一度も新庁舎に入ったことがありません。コロナウイルス収束後もオンライン会議の全盛は続きそうで、庁舎を目にする日はいつになるのか。オンライン自体は便利なのですが、外勤ついでに街の景色の変化を実感する機会も減っています。

（石田春磨）